

# 豪商西谷庄八の足跡たどる

## 小樽商科大の高野さん



旧西谷家で資料を探る高野さん(中央)  
＝加賀市橋立町

# ふるさとと橋立で 北前船主調査

小樽商科大(北海道小樽市)で学術研究員を務める高野宏康さん(43)が、出身地の加賀市橋立町で北前船主・5代西谷庄八の調査に乗り出した。西谷は明治から昭和初期にかけて小樽で活躍したとされる。曾祖父が北前船の船頭だった高野さんは、橋立と小樽を結んだ豪商の足跡をたどり、両地域の交流を推進していく。

高野さんは、加賀市や住民の協力を得て、有力な北前船主屋敷の典型とされる旧西谷家に眠る資料や写真など数千点を初めて掘り起

## 旧屋敷で資料掘り起こし

こしている。  
1878(明治11)年に

調査は、加賀市と橋立町、小樽商科大、全国北前船研

5代西谷庄八 1860(万延元)年生まれ。北前船交易で財を成し、87(明治20)年に北海道開拓でにきわつ小樽に進出して回漕店を開業。1922年(大正11)年に小樽で西谷海運を設立した。樺太などに出張所を構え、豪州や欧米への荷も扱い、同社は「東洋一の回漕店」と呼ばれた。巨万の富を築いた北前船主、西出孫左衛門と道内初の倉庫会社「小樽倉庫」を設立するなど、さまざまな事業を展開した。33(昭和8)年に没した。

建造された屋敷は木造2階建てで、オエ(広間)の奥に8畳の部屋が整列した間取りになっている。現在は空き家で管理が行き届いておらず、建物に残る資料などは手付かずだった。調査は、加賀市と橋立町、小樽商科大、全国北前船研

かなど不明な点は多い。一方、今回の橋立での調査では、西谷が開業した「西谷海運」の社史や帳簿、使用した航路などを示す資料が見つかった。  
大学で北前船を研究する高野さんは、小樽の子どもたちを対象にした学習会を開催するなど、歴史を伝える活動にも積極的だ。小樽市には日本遺産「北前船寄港地・船主集落」の認定地申請を働き掛けている。  
高野さんは21、24日にも橋立で調査を行った。資料は膨大な量となり、地域住民10人が整理を手伝った。今後は資料をデータベース化するうえで、高野さんは「小樽で活躍した北前船主の実態を解明し、数多く残る建造物の歴史的価値を高めていきたい」と話した。